

## 広域ヨーロッパ研究センター (WERC)

### 平成23年度活動報告

2012.4.27

#### 1) 国際シンポジウム「変容する世界における黒海地域～新しい世界、変わらぬ問題～」の開催 (10月29日・30日)

10月29日～30日に掛け、静岡県立大学にて、日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究A(海外)「黒海地域の国際関係—4次元分析における学術的総合研究」プロジェクト主催の国際シンポジウム「変容する世界における黒海地域～新しい世界、変わらぬ問題～」を開催した。2009年のイスタンブール国際シンポジウム「黒海地域の国際関係—変わらぬ問題、新しい潮流」に続くもので、黒海経済協力機構(BSEC)書記長、GUAM(グルジア、ウクライナ、アゼルバイジャン、モルドヴァを加盟国とする組織)書記長を含む30名を超える内外の黒海地域専門家が参集して議論した。同シンポジウムを介して日本のみならず世界における黒海研究の水準が向上したことはもとより、日本の内向き姿勢が殊更強調される今日、日本外交の裾野の拡大を支えるに足る知的インフラが整備されていることを世界に向けて発信できたことは、大きな収穫であった。シンポジウムの内容は、『新羅万華鏡』および『週間 e-World』11月30日号にて紹介し、報告ペーパーはWERCホームページ英語版 [http://werc.u-shizuoka-ken.ac.jp/english\\_53vcOOcM.html](http://werc.u-shizuoka-ken.ac.jp/english_53vcOOcM.html) にて掲載中である。

#### 2) 国際シンポジウム「東日本大震災と安全保障—パシフィック・アークを中心として—」の開催 (7月3日)

7月3日に静岡県コンベンションセンター「グランシップ」にて国際シンポジウム「東日本大震災と安全保障～パシフィック・アークを中心として～」を開催した。本シンポジウムには、本センター研究員を含む国内外からの研究者が集まり、昨年3月11日に発生した東日本大震災が日本と日本をとりまくアジア太平洋地域の安全保障にどのような変化をもたらしたのかについて、軍事的脅威以外の様々な脅威—非伝統的安全保障—と伝統的安全保障の視点から議論を展開した。デイビッド・ウェルチ教授(ウオータールー大学、カナダ)による基調講演「3.11がさまざまな安全保障にもたらす影響」に続き、冷戦後に多様化した安全保障概念やポスト3.11の日本と北東アジア安全保障などに関してパネリストの報告と討論、フロアーを交えた議論が繰り広げられた。本シンポジウムは、軍事・経済を中心とする伝統的な安全保障概念を超えて、環境、文化、人権、エネルギー、技術などより広い概念から再考する重要性を確認する機会となった。さらに、昨年立ち上げられた政策志向の国際ネットワーク「日本の未来プロジェクト」

(<http://jfi.uwaterloo.ca/>)は本シンポジウムが契機となったものであり、日本の将来の安全保障について広く議論する知的ネットワークの形成に本シンポジウムが一助となったことも付記しておきたい。

#### 3) 講演会・ワークショップ

「広域ヨーロッパにおけるモダンと伝統の形成」を共通テーマとしてセンター研究員と外部講師による講演会・研究会・ワークショップを開催した。

- 第1回 平成23年10月20日(木)

講演者：ベアトリス・デルンバッハ（ブレーメン経済工科大学・教授）

テーマ：ドイツメディアにおけるフクシマ——東日本大震災はドイツ政界をどう変えたのか——

- 第2回 平成23年10月20日（木）

講演者：渡邊昭子（大阪教育大学教育学部・准教授）

テーマ：近代ハンガリーにおける国民的料理の誕生

参加者：67名（学部学生、研究科学生、教員）

- 第3回 平成23年11月28日（月）

講演者：根本敏行（静岡文化芸術大学文化政策学部・教授）

テーマ：「ヨーロッパの街づくりと公共交通政策」ヨーロッパはどこへ行く？

- 第4回 平成24年1月24日（火）

講演者：Vlad Cubreacov（モルドヴァ共和国ジャーナリスト協会、ジャーナリスト）

テーマ：「ヨーロッパの中のモルドヴァ共和国」

#### 4) ジャーマンマーシャル基金黒海トラスト財団研究員との共同研究

日本外務省の要請に基づき国際交流基金から広域ヨーロッパ研究センターに派遣された、ジャーマンマーシャル基金の Ana Aelenei 黒海地域協力財団研究員による日本の「自由と繁栄の弧」外交に関する研究を支援し、共同研究をおこなった。（期間：平成24年1月9日～2月8日）

#### 5) ワーキング・ペーパーの充実

以下の2編が執筆され、ウェブサイトに掲載された。

- 研究テーマ：「東方パートナーシップと日本外交の裾野の広がり」

Shigeo MUTSUSHIKA, “The 'Eastern Partnership' and an Extension of Japan's Diplomatic Horizon”, paper presented to the Symposium "The European Union's Eastern Partnership: Results, Prospects and Visions", organized by Polish Embassy at Japan National Press Club, Tokyo, November 28, 2011.

- 研究テーマ：「広域ヨーロッパにおけるモダンと伝統の形成」

栗田和典 「『長い近世』イギリスにおける刑罰の複数性」

日本犯罪学会第38回大会（2011年10月23日、立命館大学）の報告原稿

#### 6) ウェブサイトの構築と運営

広域ヨーロッパ研究センターのウェブサイト (<http://werc.u-shizuoka-ken.ac.jp>) は、平成21年4月に開設され、センター研究員2名によって運営されている。平成23年度は、センターの企画運営した国際シンポジウムおよび講演会の広報とその成果の情報発信につとめた。また、上記の5)のセンター研究員によるワーキング・ペーパーも収録した。

#### 7) 教育関連資料の提供

Ustream を利用した講義中継について検討し、試験的に平成23年12月に実施された「合同ゼミ学生発表会」の一部を配信した。学部学生（2年生）には、中継を視聴してゼミ選択の参考にし

た学生もいた。

## **8) ブリュッセル自由大学 (ULB) との協定締結**

平成 23 年 10 月 29 日、本学の創立 25 周年の機会に合わせて、ブリュッセル自由大学 (ULB) から、Jean-Michel Kauffmann 薬学部長および Véronique Mathiew 講師が本学を来訪し、本学と ULB との間の協力協定が締結された。当センターとしても、ULB のヨーロッパ研究所 (IEE) との今後の学術交流の可能性を模索すべく、協力協定の締結に向けての支援を行った。